

平成28年12月15日

1. 出席議員

議長	杉原豊喜	副議長	吉川里己
1番	豊村貴司	2番	猪村利恵子
3番	朝長勇	4番	山口等
6番	松尾陽輔	7番	池田大生
8番	石丸定	9番	石橋敏伸
10番	上田雄一	11番	山口裕子
12番	古川盛義	14番	山崎鉄好
15番	末藤正幸	16番	宮本栄八
17番	吉原武藤	18番	山口昌宏
19番	川原千秋	20番	牟田勝浩
21番	松尾初秋	23番	江原一雄
24番	谷口攝久		

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局	局長	友廣秀敏
次	長	江上新治
議事係	長	吉永和彦
議事係	員	杉原啓仁

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
副	教	育	浅	井	雅	司
技		監	松	尾		定
総	務	部	北	川	政	次
企	画	財	平	川		剛
営	業	部	井	上	祐	次
営	業	部	千	賀	耕	司
営	業	部	小	田		修
く	ら	し	大	宅	敬	一
く	ら	し	井	上	将	治
こ	ど	も	諸	岡	隆	裕
こ	ど	も	水	町	直	久
ま	ち	づ	古	川	清	茂
山	内	支	橋	口	一	夫
北	方	支	岩	瀬		清
会	計	管	中	野	博	之
上	下	水	笠	原	孝	久
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	松	尾		幸
企	画	課	古	賀	龍	一
		長				郎

議 事 日 程 第 5 号

12月15日（木）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成28年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
13	20 牟 田 勝 浩	1. 定住対策について 2. 害獣対策について 3. 住みよいまちづくりについて 4. 行革について
14	1 豊 村 貴 司	1. まちづくりについて 2. 就労支援について 3. 健康づくりについて 4. 情報発信について
15	4 山 口 等	1. 「まちづくり」について 2. 「道路行政」について 3. 「子育て支援」について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

それでは日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は4番山口等議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは20番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきました。質問を開始したいと思います。

この絵は昨日、議会で借景が悪くなるんじゃないかと言われた大楠公園のライトアップです。これは物すごく借景の後ろ見えなくても、こうやってライトアップするとすごい幻想的

できれいになります。逆に執行部のほうがこたえられましたけれども、バイパスのほうから見た昼間の借景はまた絶景という形になります。

大楠公園の今までの欠点として主要道路から全く見えなかったというのがあるんですけども、今度からは主要道路から八幡岳をバックにという、すごい絶好の借景で見ていただけたと思います。

きょうの質問、1番、定住、2番、害獣、3番、まちづくり、4番、行革、これでやりたいと思います。

この大楠のライトもですね、地元の人がつくってくれたライトであります。

では一番最初いきますけども、きょうの質問のキーワードはですね1964年、昭和39年。1964年、どういう年か。1964年は吉川副議長と私の生まれた年なんですね。（「いや違う、オリンピック」と呼ぶ者あり）はいそうです。実はオリンピックの年なんですね、1964年は。

今、議場から出ましたオリンピックという年なんですけども、オリンピックと同時にもう一つあったんですね。これはここで何度か言ったことあるかもしれませんが、オリンピックで景気が浮かれています中、こそっとじゃないですけども木材の輸入化が始まりました。自由化、TPPの先取りですね。

この年から、昭和39年から関税がかからない木材が日本に入るようになりました。それで5年後の昭和44年には国産材と外産材の国内使用量が逆転したんですね。5年間でもう国内は半分になりました。今現在は8割以上が外国です。残りの2割弱が国産材となります。国産材も、御案内のように県からの補助、国からの補助で国産材を使えばこれだけ補助をやりやすよとしたから、その20%を何とか保っているという部分もあります。

きょうの質問の中でもイノシシ対策、まちづくりというのを入れていますので——山が荒れたのはこの年からなんですね。林業が成り立たない、山に人が入らない。東京オリンピックの年でもありますけども、木材の輸入の自由化が始まりました。この年の最後に責任をとって、この責任じゃないかもわからないけど、内閣総辞職されましたね。

1964年、キーワードはまだまだ続きます。

その年にジョンソン大統領というアメリカの大統領が、議会の一般教書で貧困との連鎖を断ち切るためにそれと戦うという宣言をされました。今、武雄市が、小松市長を中心にやられているんですけども、貧困対策をこの年からジョンソン大統領が、腰を入れてやるよということで一般教書で言われました。

次1964年、よくラジオで子ども電話相談室というのが今でも続いているんですけど、これもこの年から始まったんですね。

母子寡婦福祉法、ひとり親家庭ですね今で言う。ひとり親家庭の補助の施行がこの年から始まりました。何となくこう、今の御時世に少しずつ何か似通うところがあると思います。

国鉄が、この年から初めてコンピュータで予約を受け付け開始した。今まで電話と手作業

だったんですね。それを初めて国鉄がコンピュータによる、何というんですか、今まで手作業でやっていたのが、コンピュータに変わったというのが1964年。

海外旅行の自由化も1964年。これは今までは商業目的でしか海外旅行に行けなかったのが、この年から一般の観光でも行けますよといったのが1964年です。

こうやって、何となく今の御時世と相通ずるものがあるような感じが出てきます。

武雄市はどうかと。1964年の武雄市はどうか。1964年の武雄市は市制施行10周年を祝っていたんですね。今も市制施行10周年でちょうど同じような感じですよ。

これちょっと僕は場所がわからないんですね。この市制施行10周年って、写真だけちょっと見つけたのですけども。（「西浦じゃないですか」と呼ぶ者あり）西浦ですかねこれは。（「宮野町じゃないの」と呼ぶ者あり）宮野町ですかね。（発言する者あり）

現在も市制施行、新武雄市10周年施行、1964年も新市制施行の10周年。さらに、消防本部も設置されたと。今消防本部、移設されていますよね。

まさにきのうの質問で出ました武雄中学校の校舎の落成が、完成して落成が1964年でした。そのときの質問、上田議員さんですかね、質問されたその門ができたんじゃないですかね多分。

その中で一番下に書いていますけども1964年、昭和39年、北方の炭鉱が閉鎖された年があります。この年から北方町、大きく転機となった年になります。

その後、何とか転機をしないとけないということで北方町の皆さん、そして特に松本町長さんは長い間ですね、先陣を切って奮迅の働きをされていたと思います。それで今に至っています。

こうやって1964年のこといろいろあって、今度の質問に似通った部分がいっぱいありますのでいろいろ御紹介しました。

一つ目の質問です。定住対策に対して。

定住対策ですけども、今まで私は毎議会ごとに定住対策をお願いしますと——周辺部の人口減っています。まあこれは全国的なものなんですけども、一極集中化というか、例えば九州だったら博多、福岡、東北だったら仙台、そういうふうに集中しているんですね。東京は東京、大阪は大阪ですけども。そういう中で定住対策をお願いします、移住対策をお願いしますと色々なことでいっております。

特に九州は、これも上田議員さんだったですかね、先日の質問で計画よりも相当数減っていると。これは国でも一緒に、九州の人口は特に加速度的に進んでいると。そういう中で移住、定住というのを本当に腰を入れてやっていただきたい。

いろいろ質問をしまいましたが、この移住対策、年度末までにはきちんとした答えを出します、そして方向性も出しますということなんですけども、今現在どの程度進んでいるのか。周辺部は疲弊しているところが大分多いです。

これからイノシシ対策でも公役でもいろんな部分、道路対策、河川対策、周辺部人口減のところが多いです。そういう中でどれぐらい対策の、方策の計画が進んでいるのか、これをまず1点目にお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

おはようございます。定住対策につきましては3月、6月、9月ということで継続して御指摘をいただいているところでございます。

9月議会でもこの定住対策については、これまでの対策に加えて新たな対策も必要ではないかということで御指摘を受けまして、年度内に新たな制度設計をした上で来年から始められればということでこれまで検討してきたところでございます。

2点ありますが、一つは、空き家バンクというのは既にございますが、空き地バンクというものを土地も含めて御紹介をしていくことができればということで今、市内に50件近くをリストアップして今オーナーさんのほうに確認をしているところでございまして、これについても空き家、空き地バンクという形で御紹介が4月からはできるものということで、準備を進めているところでございます。

それからもう1点でございます。新たな定住、移住対策の支援策がないかということで検討してまいりました。

昨年、ウェルカム武雄ハウス事業ということで、武内・若木町のほうに住宅を新築し、移住対策をとってきたところでございますが、これにつきましては6世帯合計21名の入居を実現し、周辺部の人口減少の一助になってきたかというふうに思います。

ただ、住宅建設の補助あるいは用地費、造成工事費等も含めて4,500万円ほど費用を要しました。これについては、今後の持続的な事業というには非常に経費的に重いものですから、厳しいのではないかという検証もいたしました。

また新たに市がこういった、市内で空き家がふえていく中で新築住宅を市がどんどんつくっていくということにつきましても、逆行するものがあり、既にある空き家、空き地を率先して利活用する方法を考えていけないかということで検討いたしました。

そうした中で、現在ありますというか、その空き家や空き地バンクに加えて、現在あります定住特区補助金を、新たな形を加えたところで支援をしていけないかということで、見直しをしてきたところでございます。

主な内容につきましては、これはスキームということで御説明したいと思います。1つは周辺部での住宅購入について。空き地バンクで土地のほうも御紹介をしますけども、土地の購入に対しても支援ができないかということで、その補助に対するどれだけの程度かを含めて今検討しております。

それから、定住特区補助金では奨励金と住宅の改修費用を支援しておりますけれども、この限度額が小さいのではないかとということも含めまして、この上限額の引き上げについても考えております。

それから、新たに若い世代に対する、まあ新婚世帯への補助も追加をいたしております。

それからもう一つですが、これは支援策ではございませんが、現行の定住特区の支援については周辺5町、武内、若木、橘、東西川登に加えて山内・北方ということで支援をしておりますが、山内北方の中心部を除いたところの周辺部の人口減少の激しいところに、ちょっと一部指定地域を見直しまして支援をしていきたいというふうに、そういった見直しをしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

こうやって着々と進んでいるのを聞いて、一つ安心しております。

空き家バンク、空き地バンク、こういう形で進めていただけているということですが、先ほど数字をちょっと言われました、50カ所程度という。多分ですね市内には50カ所程度じゃないと思うんですね。0が1個足りないんじゃないかというぐらいあると思います。

武雄市はことし、住みたい田舎ナンバー3だったですかね。1位、2位があつて、3位だったんですね。1位のところを見ました。1位のところは鳥取県だったですかね。見たんですが、町が2位に入ったんですね。何とか町、何とかといたら失礼ですけども。そことかですね、やっぱりこういうふうな移住政策でPRが物すごくできていました。

そういう中で、武雄市もこうやって基本ソフトが出てくると。物すごくやっぱり市外の人たち、市外県外の人たちは見られているみたいなんですね。

空き地バンク、空き家バンクとあればそれを調べてみて、そこをクリックすると周辺が見えて、例えば間取りがどうか、区画がどうかとかというのもきちんと見られて、グーグルストリート使えばまわりの借景も全部見られますので、そういう部分もあると。

ぜひそういうふうなことをさらに、さっきの50カ所ではなくて、調査といいますかやってほしい。そして情報をそういうふうにシェア、情報のシェアというんですね、どんどん広げていくという形でやっていただければ、定住移住というのがさらにふえる可能性があると思います。ぜひやっていただきたいと思いますが、市長、その辺のところはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。先ほど部長から話がありましたのは、例えばウェルカムハウスに来

てもらって、そこからじゃあその土地をさらに知ってもらって、今度は家を買って定住してもらおうという、そういう流れを今後さらにつくっていく。さらにそこには周辺部に対する手厚い補助をして、とにかく今、周辺部を含めて住める環境を、移住できる、しやすい環境を整えていくというところだと思っています。

先ほどおっしゃった住みたい田舎ランキングですね、今は3位ですけれども、ぜひそれ以上を目指していきたい。まあ来年2位、再来年1位、そこを目指して、そこは先行事例をしっかりと分析すればおのずと上がるものだというふうに思っていますので、たしか島根県の町だったと思いますけれどもしっかりと分析し、さらにお住もう課の組織ですね、ここでもしっかりとPRを今後さらにしていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。そうやってハードソフトを固めていただければ、先ほど言いましたように移住定住、そういうのがふえると思います。

あともう一つ、例えば北方町でこの前漏れ聞いた話、民間と一緒に中心部のほうを開発している中、それが物すごく活況していると。民間の力に行政がサポートして、それを物すごくやっている。やっぱりあとは民の力も借りながらぜひやっていただきたいと思います。

今、周辺部、周辺部と言っているんですけども、中心部もいろいろ問題あると思います。

そういう中で周辺部からまた進んでいるので、やっぱり身につまされる部分で、こうやって皆さん方に訴えさせていただいています。

こうやって議会を、例えば今私が質問していますが、こうやってほかの議員さんの話を聞いていると、先日出た道路政策、道路河川の部分は町のほうは市が全部やってくれるけど、周辺部は公役とか何とかでしなきゃいけない、グレーチング1つにとっても自分たちでやらなきゃいけない、コンクリ打つのも自分たちでやらなきゃいけない、草刈りも多い。そういう中でいろんな問題が出てきます。

さらに交通政策の部分で、免許の部分がこれも数多く出ています。免許の返納に伴ってその足の確保というやつも必要です。みんなのバスはそれ担う部分だと思いますので、ぜひそういう免許返納云々というところにあわせてそういうふうな足の確保まできちんと並行して考えて行って、周辺部対策、定住対策をやっていただければ幸いです。

では次の質問です。

ごめんなさい、すみません、こういうのがあるという紹介ですね。

婚活事業。婚活事業というのはここ何回か、きょうは紹介なんですけども、周辺部だけでなく市全体でも、多分国全体でもそうかもしれませんけども、婚活事業はもう行政が力を入れてやっている部分が1つなんです。

これは見えにくいんですけど、松浦市というのが見えますね、だれでもね。でもねこの上にね、ここにゼクシィとあるんですよ。ゼクシィって知っていますかね。知っていますかゼクシィ。これと組んで松浦市はやっている。これ、めっちゃよくできています。この冊子なんですけども、移住定住の政策まで全部書いてあります。これは結婚のやつなんですけども、松浦市はこうやってコラボしてやられている。

今度の土曜日は、これは鹿島の婚活団体なんですけども武雄市図書館を借りてやると。

武雄はどうなのかというと、武雄も実はこの前からこういうふうな仕掛けをされていて、幾つかそういうふうなカップルじゃないですけども、出てきているというらしいです。話を聞きました。武雄も負けずにこうやって、やってらっしゃるらしいです。

ぜひ3月議会ではその紹介ができるぐらいに頑張ってくださいんですけども、この婚活事業もできれば力を入れてやっていただきたいと思います。

これは質問ではありません、要望です。よろしくお願いします。

次、2番にいきます。害獣対策。

これも大きな問題になっています。害獣対策で検索するとすごい数が出て来ます。害獣対策でもこの辺でいうとイノシシ、アナグマ、これ僕がつかまえたんですけども何かわからなかったんですね。写真撮って後で見てもらおうと思いましたが、多分イタチだと思います。ハクビシン。イタチじゃないですか。(発言する者あり) これアップで写っているんで、テンかイタチかハクビシンかよくわからないけど、これでめっちゃ家の中臭いんですよ。

こういう害獣対策、でもどっちかというといノシシですね。イノシシも周辺部、もちろん町中に対しても物すごい被害を出しています。

例えば山を歩いてみます。近所の山です。これ全部イノシシですね。イノシシがほじくった跡です。これ、こういうふうな跡なんですけどもこのあとどうなるかという、来年雨降るとこれざっといくでしょう、大雨くると。

これも一緒です。これさっきと場所違います。この辺ざっときますね。こういうふうな感じでほじくり返しているんですね。人が入らない。さっき言った1964年、山に人が入らなくなって、こうやってイノシシがどんどん来ていると。

あとですね、こういう感じで根っこ掘るんですね。これ根っこ掘って多分ひよつとすると人間だったら掘った後こう埋めるかもしれないですけど、イノシシは埋めないですよ。

これもそうです。これもこういう。これ見てください。これはU字溝なんです。実は。U字溝がとおっているんですよ。U字溝の中にこうやって入っている。

イノシシは農作物も——ここではちょっと入れていましたごめんなさい。これはミカンです。ミカン、めっちゃうまいんですこのミカン。イノシシもわかるんですかね。めっちゃおいしいミカンなんで、これ若木の川内のミカンなんですけど。で、やっぱりとられているんですね。農作物を。田畑の稲とか何とかって、もちろんこれも言うまでもありません。

これはうちの地区なんですけども、イノシシよけ。イノシシがあんまりほじくるんで、このU字溝が埋まるので自分たちで対策してこれをずっと、こっからさっきのところから続いているんですね。ずっと公役で、ほじくると落ちる、落ちると水路が埋まる、水路が埋まると自分たちで上げなきゃいけない。もう負の連鎖みたいな感じでやっているんですね。さっき言った農作物。

そして今のところ、武雄市はイノシシに襲われたというのは余り聞かないですけども、やっぱりこういう形で物すごい被害を受けている。こういう被害を受けている。

さっき言ったインターネットとかで全国の様子を見ると、例えばある市は去年の予算の倍額つけたと。例えばA市はことし倍額つけた、B市は補正予算で1,500万プラスした。そういう状況が続いているんですね。

そういう中で武雄市は、どのような方策をとられているのか。

これはイノシシ被害があって、ワイヤーメッシュというのがありました。ワイヤーメッシュでひととき落ち着きました。落ち着きましたけども、まだまだ戦いは続いています。

そういう中で、武雄市はどのような方策をとっているのか。

さっき言ったように、何か質問する前に言いにくいんですけども、よそはどんどんイノシシ被害のやつに予算を増額、増額、補正予算でされているぐらい、やっぱりそれぐらいやられています。

武雄市も同じようにこうやって、イノシシ被害が物すごく多いです。これはひいてあげればさっき言った土砂災害につながって、また余計に予算を出さなきゃいけない。そういう中で武雄市はどのような予算を考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

（モニター使用）おはようございます。画像を使いまして、イノシシ対策につきまして御説明したいと思います。

すみません、少し画像が動きませんので、申しわけありません。

御指摘のイノシシを中心としました有害鳥獣の対策でございますが、現在特にイノシシにつきましては画像でごらんいただいていますように、3本柱を軸としまして対策を講じております。

捕獲でございますが、これは90名程度の猟友会の皆さん方の御協力いただきまして、捕獲活動を御協力いただいているという状況でございます。これにつきましても国の制度等につきましては、捕獲の奨励金等でございます。

それからもう一つは防除でございますが、防除ということで農地への侵入を防ぐために先ほど御紹介いただきましたワイヤーメッシュ等の取り組みでございますが、これにつきまし

てはワイヤーメッシュ等の整備交付金あるいは箱わなの貸し出し等ですね、そしてまた猟銃免許の取得補助等が、ここの防除という形の政策の中に当たっていきます。

それからすみ分けてございますが、イノシシが寄りづらい、生息しづらい環境にするという形で、先ほど御紹介いただきましたように地域の皆さん方の御協力をいただきまして、多目的機能支払交付金や中山間地域等支払交付金を御利用いただきまして、政策を行っているという状況でございます。

それから、こちらはアライグマ等の、あるいはイタチ等が出没するという形で地域の皆さん方から御相談を受ける場合がございますが、そういった場合につきましては、この小型の箱わなを貸し出ししておりますので、もしそういった御要望がございましたら申しつけていただきたいと思います。

それからそのほかとしまして、カラスにつきましては御承知のとおりでございますが平成24年度から市内在住の鷹匠によりましてタカ、ハヤブサを使っていただいて追い払いをしていただいているという状況でございます。

最後に予算でございますが、予算につきましては前年度の有害鳥獣の出没の頭数を見ながら前年度並みの予算要求をしていって、途中でまたそれがふえるという場合につきましては、補正で対応させていただいているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

アライグマの箱わなの貸し出しはあったんですね。こうやって小さいのが。

すみません、これ私知らなくて自分で買いに行つて——これ今みたら50基あるんですね。結構貸し出しあるんですね。これはもっとPRしたら借りに来られると思います。これ私も借りられるんですかね。あ、ごめんなさい。

そういう中で、さっきいろいろ言われました。これ多分よその市と全く同じ補助制度なんですね。国の補助制度一覧というのがある、まあちょっとこれ見えないんですけども、いろんな補助制度がありますよね。

今度環境省も——これ今出された農林水産省の——環境省が2023年までにイノシシ半分にしますと宣言したんですね。環境省さんが。2023年までだったかな。イノシシの数を半分にしますと。やっぱりそれぐらい国も力を入れている。

国の予算も数年前に比べたら、例えばおとしが90億だとしたら去年は95億、ことしは100億とずっと予算的にはふえてきています。

そういう中でいろんな事業で、先ほど言われた農水省の補助というものもありますし県の補助というものもありますから、ぜひ武雄市独自のやつもやっていただきたいと思います。

前ですね、これはさっき出しちゃったんですけど、いのしし課がありました。今はもうな

くなっています。僕は逆にもうこういうのを復活させてもいいんじゃないかと。いのしし課復活させて、いのしし課（害獣課）じゃないですけど、それぐらいやっぱり害獣には困っているのが現状です。

予算的にはさっき言った、市単独でも倍付けしているところがある。そういう中で本当に、これ周辺部だけじゃないと思います。困っていると思います。ぜひ、独特のやつをやっていたきたい。

補助制度いっぱいありますから、独特のやつをやっていたきたいというのもありますし、もう1個、これは前にイノシシ料理やられていましたよね。今もきちんとした国の補助政策で、そのレシピのいろんな部分で、そういうのまで補助が出るようになっていきますよね、補助制度。

これもですね、もう一つここで聞いたかったのが、いつも言われる毒餌を何でやらんとして。我々は、例えば避妊剤がまじった餌をこうやって、やらなきゃもう頭数自体減らないんじゃないかというようなことを言って。ここでも私、何回か言ったんですけども、それをやると周りの環境に影響するんですよとか、それを食べて死んだのを食べたのを人間が食べるとどうなるのかと。避妊剤が入ったやつを、それを人間が食べるとどうなるかという、あいまいな答えしか受けていないんですね。

だから我々も聞かれると、何かこういうふうらしいですよ、らしいですよということではか言えないので、何で避妊剤入りの毒じゃないがそういうのを置いたり、本当の毒を置いたり、これは法的にだめなのか、法律的に何か抵触するのか、その辺をちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

御意見ありがとうございます。私どものほうにもそういった御意見を頂戴するわけでございますが、実はイノシシの毒餌につきましては鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、いわゆる鳥獣保護法でございますけども、その第36条に禁止をされております。

さらに私どもとしましては、本当にだめなのかということで環境省の九州環境事務局のほうに問い合わせをいたしました。そうしますと、先ほど御紹介いただきましたように、ほかの動物が食べる可能性もあるということで、無差別に摂取するということから、希少生物の影響の観点、それから土壌の汚染も心配されるということ等で禁止をしているということで確認しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20 番 牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

法的にだめなんですね。法的にだめでこうやってイノシシ狩猟を法律で禁止した国がもっと、予算つけてこれをやらなきゃいけない。国にやってもらわなきゃいけないですね、もっと予算的にふやすのを。

例えばさっき言いました、いろんな独自の案ができないかと。

イノシシはグレーチング、グレーチング渡れないらしいですね、有蹄類は。だから要らないグレーチングが出たらそうやってやるとか。

あとはもう一つ、ワイヤーメッシュがこうたっているのに、トの字型にもう一つワイヤーメッシュを入れて使うとこの強度が増して、こっからほじくっていかれないと、そういうやり方もいろんなやつがあると思います。

ぜひですね——あとは動物の、オオカミの尿の話も何度もしているんですけど、そういうやつにぜひ取り組んでいただきたい。

そういうことを鑑みても、やっぱりこういういのしし課ってなくしましたけども、専門チームも必要なくらい、それぐらい農作物そして被害にあわれています。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

もう市長の話よかですね。じゃあ市長お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私の家ではアナグマとモグラに悩まされているんですけども、やっぱり本当に深刻だと思っています。

2つ申し上げますと、1つは、武雄市だけが頑張っても、よそから隣の市からイノシシがくるといふこともありますので、ここについては県全域でとにかく対策は必要だということで今、県にも働きかけております。

あと予算獲得については、今農水省からの補助金ですね、実際に来る額が年によって少なかったりするので、そこについてはしっかりと捕獲をするインセンティブを、しっかりと市としても確保するというところについて市長会等でも継続的に働き掛けているところであります。

いずれにしましても、ここについてはやはり非常に私も被害等を聞いておりますので、引き続き力を入れていきたいと、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

力を入れていただきたいと、やっぱり市長の言葉の中でちょっとひっかかったのが、武雄市だけが頑張ってもよそから来る可能性が、私それをいったら何でもあてはまると思うんで

すね。

やっぱり武雄市も頑張らなきゃいけないと思うんですよ。それで広域で考えていかなきゃいけないというのがありますけども、まずは武雄市が頑張らなきゃいけない。

農水省のホームページの中で紹介されているのは佐世保の例、そして富士町だったかな、例がみやき町やったかな、どこか忘れましたがでも例が載っているんですね。それはそのこの自治体で頑張っってこういう施策をしていますよという、独自のやつをやっているんで載っていて、やっぱり広域では、確かに市長のおっしゃることはわかります。でも武雄市も頑張っってぜひいただきたい。よろしくお願ひしたいと思います。

次、もうサルもあれですけども、サルも爆竹で追い払うというのがありますけども、あんまり頭数まだ少ないですからそんなに被害というのありませんけども、タカが苦手らしくて、タカが来ると——彼女から聞いた話では高崎山ですかね、大分。あれ逃げたサルをちゃんと戻すとか何とかまでやっているらしくて、サルにも効果があるらしいです。カラスだけじゃなくて。これはちょっと紹介で。

次、3番、住みよいまちづくり事業のほうなんですけれども、1つ目。これ前からの質問の引き続きです。

障害がある方用の駐車場、これはもう武雄市内、これも市長、広域じゃないですけども、健常者がとめているところ、どうですか皆さん見ないですか。健常者がとめている。どう見ても若いカップルがとめているとか、普通のおじさん、おばさんがとめているとかですね、このマークをつけないでですね、見るんですよ。何とかこれができるか。

実際のところ、例えばボーリング場の近くのTSUTAYAにこの前ちょっと行ったところ、ここに普通の人がとめている。これをつけないでとめている。若い親子連れだったが、とめている。それを見ている中、遠くにですね——あそこは結構、おばさんが車をとめられて、がらがら、車からおりてがらがらのやつを遠くから引かれているんですね。その車にはこれがついていたんですよ。その遠くにとめた、そのがらがらのおばさんには。

健常者を何とか、とめさせないという言い方はおかしいですけども、そういう方策がとれないのか。例えば条例でも、罰則規定はあれかもしれないですけども、できないのか。

今は——昔ですね、これは昔の話なんですけど、東京でも大阪でもどこでも、くわえたばこで行ってましたよね。どうにかしたら、ぼって捨てていた。それが当たり前、当たり前ということは、当たり前じゃないんですけどもしていた。でも今は罰則規定ができて、もう我々もそういうことができないというのがありますよね。

だから何とかこういう、例えば武雄市はこういう障害をもたれている方に優しい町です——それこそさっき言った住みたい田舎のポイントにも、——ポイントのためにするわけじゃなかとぼってんですね、余りにも多く目につき過ぎると私は思います。

ぜひ、こういうふうな対策がとれないものか。

例えば、TSUTAYAの隣のスーパー何やったですっけ。（「マックスバリュ」と呼ぶ者あり）あ、マックスバリュ。マックスバリュさんはここにポールをたてて、車がとまったらセンサーで、ここは障害をお持ちの方の駐車場です。健全者は御遠慮くださいとスピーカーで言われるんですね。聞かないときもありますよ、聞かない人は聞かないから。でも、大分あれは違うと思います。

例えば、そういうのを設置したところには補助を出すとか。（発言する者あり）ともう一つは今言われました、腕章がよかと。今ですね、都会の駐車場はNPOか何かで腕章つけて、10時半になると民間で取り締まっていますよね。たばこのポイ捨ても民間の人たちが見ていますよね。

だからそういう方策ができないのか、ぜひこれを考えていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

井上くらし部理事

○井上くらし部理事〔登壇〕

おはようございます。パーキングパーミット制度ですけども、これについては佐賀県のほうで平成18年に初めて制度を導入しまして、現在全国で35府県が実施をしているところがあります。

最近、佐賀県がアンケートを実施されたところによりますと、制度開始以前と比べまして障害者用駐車場を利用しやすくなったとの評価はありますが、利用証の掲示のない駐車が増えるという課題が残っているようであります。（「掲示が増える」と呼ぶ者あり）いわゆるパーキングパーミットの利用証ですね、その掲示のない駐車が多いということでの苦情がっております。

その対策としましては、パーキングパーミット協力施設の管理者が行う対象外駐車に対する指導について県に依頼するとともに、市としましては市内の対象施設については連携しながら行っていきたいというふうに思います。

規制については、議員さんおっしゃられるとおり有効な手段とは思いますが、障害者等への配慮という実践からは、規制よりも市民の皆様へ制度の理解を深める啓蒙活動を行ってきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ちょっと残念だったですね。武雄市自体で何かやれないかという質問だったんですけど、何かやっていないかと。全部、県任せですね。啓蒙活動をやりたいので——やる気ないですね、いいです。

次の質問いきます。(笑い声)

優しくないですよ。こんな御答弁だったら。県だけじゃない、県にのっかってやるとかです、利用率を上げると、そんな答弁で。こういうの答弁ですか。武雄市は何をやっているか、これから何をしていただけるんですかという答弁で今の答弁だったら、もうやらないってということですね。

では、次の質問にいきます。

市長何かありますか。

啓蒙活動だけでは、ちょっと私は話にならないと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

これについては、たしか国土交通省に聞いたんですけれども、今は見かけたら指導ということをやってもらっていますけれども、それに加えて車に警告文書を張るとか。(「そうそう」と呼ぶ者あり)これが非常に効果あるとたしか聞いた覚えがありますのでもう一度確認した上で、それが非常に効果的だったはずですので、そういったことをまず武雄市からやっていきたいとそのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

もう今市長が言われたとおりなんです。今さっきの答弁で、本当は次のことを用意していたんです。武雄市役所では、とめているとべたべた張りますよねって。駐車違反って。何でそれでよそができないんですかという質問を用意していて、今、市長がまさに言われていたんで、そういうのもやることで、いかがですか。できると思いますよ。

市役所にとまっているのは、そうやってあたり構わず——すみません言い方失礼しました。——やるのに、こっちは啓蒙しますで、私はそれが納得いかないのでさっきちょっと怒ったんですけども、ぜひこういうこと——今何も打ち合わせていないです。やっぱりこうやって言われていたんで、ぜひやっていただきたいと思います。お願いします。

よかよか、もう答弁よかです。(発言する者あり)

いや、じゃあお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

井上くらし部理事

○井上くらし部理事〔登壇〕

このパーキングパーミットについては県と協力施設のほうで協定書を締結し、そして協力施設のほうでできるのが口頭指導と注意喚起……

[20番「それやるかやらんかちゅうとこでしょ」]

ということでございまして、市としても市の公共施設に関してはそういう指導を行ってまいりたいというふうに思います。

[20番「公共施設だけ。協定するとよかろうもん別に。やる気なし」]

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに。

○井上くらし部理事（続）

今おっしゃられましたように、民間のほうにもですね協力を求めているというふうに思います。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

公共施設には貼っていきますと。民間のほうはね、さっきこっちからいい言葉ができました。民間と協力と。話し合えばいいんですよ。（笑い声）話し合ってやりますと。もしくは、やってくださいと。何でもこういう答弁が出ないのか不思議でたまらない。（発言する者あり）

では次、質疑4。これも前のやつです。

これはあるコンビニエンスです。コンビニエンスの本コーナーの、いつも多分ですね定位置だと思います。ずっといってこの辺に、成人誌がいつもあるんですね。成人誌が置いてあります。奥がトイレというふうな形で、多くのコンビニはそういうシステムだと。

これは武雄市の川良のセブンイレブンさんなんですけど、成人誌は撤去しましたと。

よく成人誌とかビデオとかDVDとか売っている自動販売機とか、立つと大騒ぎになりますよね。こういうのがたつた、何とか撤去しなきゃいけないなど。

多分ね私——育友会の会長か何かしている、市連Pとかでもそういう話に何かなっていたんですね。

でもそんなことよりも、コンビニのこのところに堂々と（笑い声）子どものああいうほら——成人誌の自動販売機は県の条例とかで、周り囲んでわからないようにしなさい何とかってきちっとできていますけども、コンビニはもう堂々と——子どもは買えませんよ成人確認がありますから——堂々と展示してあるんですね。

もしくは例えばTSUTAYAさん、TSUTAYAさんも多分DVDコーナーあると思う、成人コーナー。でもきちんと隔離されていますよね。で、普通のレンタル屋さん。レンタル屋さん、ひよっとすると買う人が恥ずかしいから（笑い声）隔離しているのかもしれませんが、やっぱりこうやって隔離がちゃんとしている。

でもコンビニエンスは、今子どもたちが一番足を運ぶ、買い物する場所はコンビニエンスだと思うんですよ。そういう中で、野放しという言葉はあれだけど、——もちろんそっちは

商業ですからそういうのがないと。

これも先ほどの規制云々じゃないですけども、例えばこういうところを、コンビニエンスで成人誌を外したところは、例えば市がそういう優良指定店とかですよ、何とかするような、何か方策はできないものかと。

お店の人たちに成人誌をはずしてくださいという啓蒙じゃないですけども、そういうようなことができないのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町こども教育部理事

○水町こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。有害図書につきましては、県の青少年育成条例で具体的なタイトルが指定されまして、公表されております。

武雄市青少年育成市民会議の巡視活動等でコンビニ、27年度の実績では28店舗ございましたけれども、コンビニ28店舗の点検活動を実施しております。具体的には各町の青少年育成市民会議の方に町内のコンビニで青少年に配慮した区分陳列がなされているか、あるいは包装等の陳列方法が適切であるかといったチェックを行っていただいております。

そしてこれに協力をいただいているお店につきましては、青少年サポート協力店ということで、県からステッカーを交付して認証をしているといった実態がございます。

先ほど議員から御紹介がありました、川良のコンビニの店主の方の対応につきましては、非常に感謝すべき、歓迎すべき対応であると思います。

こういったことも今後の点検チェックの活動の中で、こういったことも御紹介しながら引き続きこれらの活動を通じて対策等の強化を図っていきたいと思いますが、陳列撤去といった強制力のある指導はできないために、先ほど御提案等あった市独自の認定ステッカーそこら辺も今後検討してまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、チェックしてまわっていると。チェックはするんですね。例えばうち酒屋なんですけども、酒屋もチェックされます。お酒とジュースきちんと分けているかと。コンビニエンスさんもそうですね。区分陳列というのは、ここにこれくらい成人誌コーナーですよと区分されているだけで。いかに目につけないようにするかというところがメインなんです。ね。

子どもっていつも通るんですよ。刺激的なタイトルで、大人が商売ですからやっぱりそういうタイトルもすごいしなければ手を伸ばさないですから。今、法律で成人誌を置いているのは立ち読みできないようにしなさいということになっているので、立ち読みできないんですね。立ち読みできないかわりに、タイトルがすごくなるんですよ。刺激的なタイトル。

立ち読みされないかわりに刺激的なタイトルをつけないと、それを買ってくれないから。

だからそれをいかに、こうやって撤去する、撤去していただけるお店をふやしていくか。これも住みたい武雄市の中の、僕は大きなポイントだと思います。

ぜひこういうふうなのを聞きながら、撤去のお願いじゃないですけども、何らか自主的撤去にいけるような方策を見つけていければと思います。ぜひよろしくお願ひいたします。

では、住みよいまちづくり3番目。

去年の1月26日、武雄市文化予防、防火の日ですかね、文化財の日か、大雪が降りました。そういう中であらゆるところが——これ僕なんですけども——ここまで積もっているんですね。田舎のほうというか山のほうは。そういう中で、余りにも多く雪が降り過ぎて、なかなか周辺部の道路までとか主要道路だけで家から出られないところが多い。

これは塩カルなんですけども、2日間雪に埋もってこっちまでとても業者さんとか手が回らない。これは一応県に連絡して自分たちでまいていいですかということで、自分たちでまくために雪を掘り起こして、これをとってやりました。

これは雪が降るのでという、あらかじめ置いてあったやつです。業者さんがしようと。でもね来れないんですよ、忙し過ぎて。あれだけ降ったら。ことしもいつ降るかわからない。あのとき物すごく渋滞しました。

ぜひこういうのを、例えば消防団の各小屋に何袋か、各町の自治公民館に何袋かおいて、これはもしこうやって大雪が降って来られないときにはふっていいですよというふうなことがあらかじめできないものか。去年みたいな大雪、本当に降る可能性もありますので。

あのときは本当に麻痺しました。家から出られない、地区の細道が通れない。そういうのは業者さん、とても手が回らない。だって国道498でさえ2日目、3日目ぐらいにやっきたぐらいですから。

この辺のところの配慮をあらかじめできないものかを、お伺ひします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。現在も市道の急勾配の部分については地元の皆様に融雪剤の散布について御協力をいただいているところでございます。

また消防団の方の御協力が得られるということであれば配付を行います。よろしくお願ひします。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱこういうところがうれしいですね。はい行えますと。

消防団ができるかどうか、地区の人たちがやるという形であらかじめ置いていただく。急勾配のところだけじゃない、そういうふうな答弁、気持ちよかったです。ありがとうございます。

ぜひこういうことで、いつこういうのが来るかもわからない。坂道だけでなくこの前、平地で物すごい損害が出た。だからやっていただきたいと思います。でもやるって言うだけでいたので、本当にありがとうございます。

では次、ドローンです。

ドローンはこうやって上から撮るやつですね。ぜひ市役所に1台、今度杵藤消防本部に1台置いていただければ、これは水害のときとか何とか、どこまでいけるかと人間がやらなくてもいい。

ここはずっとあっているんですけども、水害のときここら辺はもういけないですね。でも向こうは家のところまで、孤立した家まで見にいける。携帯が通じないときが多い。だからこれをぜひ置いていただきたいんですけども、いかがでしょうか。そんなに高いやつじゃないです。市役所に1台、もしくは広域圏に1台。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

おっしゃるとおり、このドローンにつきましてはもう皆さん御存じのとおり災害等に有効であるということで、この熊本県の地震のときもこのおかげでいろんな発見があった、救助につながったということもございました。

ただ、このピンからキリまであります。10万円から250万円以上するものもありますが、ただ航空法の制限とか、あるいは操作の修練とかいうのにやはり時間等がかかります。

これにつきましては単独で市で持つのも、ひとつ検討は必要かとは思いますが、杵藤広域のほうで今度消防本部、おっしゃるように新設をしますので、広域的な形で保有できないかということで本部のほうとも協議したいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番牟田議員

○20番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそうやって配置していただければ今後、山火事なんてめちゃくちゃ役に立つらしいですね、情報収集になって。

以前、若木八幡岳で山火事がありました。そのときに団員の人たちが、山をどの辺まで行こうって迂回して、その様子とかを伝えようということでトランシーバーもって上のほうにいったら風向きがかわって、実はそっちのほうまで火がきていたと、見えなかったけど。ごろんごろん転がり落ちて逃げてきたと。でもこういうのがあればやっぱり大丈夫だと思います。

すし、水害でも使えると思います。ぜひお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ことし8月に佐賀県が民間の会社と災害協定をドローンに関するですね、結んだというふうに記憶しております。

この分野もぜひ、費用面等々もあると思いますので企業と連携をしてできないかと。私が言うのもなんですけど、杵藤広域圏の消防本部にしっかりとそこはやることを前提で働き掛けていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。あと安心安全課にぜひ1台、よろしくお願いします。

では、最後の行革です。

これは、提言のほうで入れますということで伝えております。ぜひ吉川議員、そして山口昌宏議員さんもいろんな行革のことをいいました。IT活用の業務化で業務の縮小化、そしてアウトソーシングで資産の活用、ぜひこれを行革の中で大きく力を入れていただきたいと思います。

特に資金の運用、先日まで料金の値上げというのが出ましたけれども、資金の運用で——これは前回紹介したやつです。武雄市は130億の金額があって1,500万の資金運用益。大分県、国東市は110億で2億の運用益。

やっぱりこういうのをやって何というんですか、資産のやつをやっていただきたいんですけども、ぜひこの辺のところを今言ったこの1、2、3力を入れてやっていただきたいと思いますし、これは先日、朝長議員さんがいっていたところのファンドです。ファンドでお金を集め、そして資産を利用してお金を集める。そういう中で交付税の減を何とか埋めていく。

あと一番はさっき言った、集約化による職員さんの定数を下げていきますから、そういう中で一番人件費がかかる部分、そういうやつもできると思います。

ぜひやっていただきたいと思いますので、これを最後の質問に、市長にお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

いかに稼ぐ自治体にするかいうところは、私も非常に大事だと思っております。

今ある資金、これをしっかりと運用していく。そのために組織の中でもノウハウの蓄積、

そしてしっかりできる職員、これにおいて進めてまいります。

○議長（杉原豊喜君）

20 番牟田議員

○20 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

1964 年のヒット曲は坂本九の「明日がある」。頑張ってください。名言は、バレーで金メダルをとった東洋の魔女の監督の大松氏「俺についてこい」。市長もリーダーシップをもって頑張ってやっていただければと思います。

1964 年と何となく似ている気がします。ぜひそうやって市長も頑張って行革、いろんな部分でしていただけたらと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で 20 番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10 分程度休憩いたします。

休	憩	10時00分
再	開	10時10分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に 1 番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、1 番豊村貴司、今回私自身 10 回目となる一般質問を始めます。

今回は大きく 4 つの項目について質問いたします。

時間も限られていますので早速最初の項目に入ります。まず、まちづくりについて。

観光地として武雄がありますが、ことは武雄に限らずではありますが、九州全体でもそうであったように、地震などの影響による観光への影響も見られ、私が住む地域のほうでも一時期はオルレの体験をされている外国人観光客の方の姿も少なくなったなというふうにも思っていました。ただ最近は、そのオルレ体験の方も再び見られるようになってきていると思っています。

そこで最初の質問です。現状武雄市において、この観光客数の状況はどのようにあるでしょうか。外国人観光客また先ほど言いましたオルレ体験者数についても、あわせて答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えをいたします。議員おっしゃるように一時期ですね、地震の影響ございまして観光客が減少したわけですが、市長の英断によりまして、クーポンも発行いただいたという効果も出まして、現在、宿泊施設のほうにヒアリングをしましたところ、回復傾向にあるという形でございます。

さらにインバウンドに伴う外国人でございますが、御承知のとおり、特に韓国人の皆さん方につきましては26年度から27年度にかけては倍増しておりますし、ことし4月から9月までの九州オルレの武雄コースを御利用いただきましたお客様につきましては、2,532人という形で把握をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

九州オルレで武雄コースの方が2,532人、やはり韓国の方が倍増しているということであると思います。そこが回復傾向にあるということは、今後ますますそこがふえていくように取り組みをしないとイケませんが、傾向としてはいい傾向かなというふうに思います。

そこでオルレのことについて入ります。

九州においてはオルレコースが17コースですかねありまして、武雄コースはすごく人気があるというふうに伺っています。

私が住んでいる永島地区も、白岩から貴明寺のほうを通過して永島の住宅街を通過して保養村に行き、また永島のほうを通過して行くということですね、そういうふうなところがあるんですが、永島の方とかと話をしているとですね結構、永島の貴明寺、このスライドで出したところは貴明寺の入口のところなんですけど、この辺で迷われている、どっちに行けばいいかなというところがあると。私自身も何度となく、この方もしかしたら迷っているかなと思って様子を見たら、やっぱり行ったり来たりされている感じがあってですね、道案内をしたことも何度かあります。

また、ここ以外にも白岩体育館のところ、白岩体育館の裏のほうからこう上がっていくところがありますが、体育館の横のところグラウンドゴルフをされていて、この間も永島の方と話をしていたらですね、結構グラウンドゴルフをしているときに来られて、貴明寺、貴明寺というふうな形で聞かれることがたびたびあるということでした。

もちろんですね、この方は貴明寺に行きたいんだなというふうなことで、もちろん案内をされているらしいんですけども、オルレのコースを十分把握されていなかった部分もあったのかもしれませんが、川沿いに行ってこっちですよという形で案内されたりということもあったみたいです。

幾つか、そういった形でちょっと迷われているコース、場所、ポイントというのものもあるん

じゃないかなというふうに思います。

温泉通りのまちなか案内所がばいの方にも、ちょっとお話を伺ったときに、韓国の方ですかね、貴明寺がちょっとわからなくて行けなかったという方が時々いるというふうなことも伺っています。やはり九州オルレの中でも人気のコースでもありますし、貴明寺もそうですが日本の文化をあらわすようなところでもありますし、やはり味わっていただきたい、体験していただきたいというところもあります。

繰り返し迷われているようなポイントについてはやはり掲示のあり方、そういったところもちょっと見直すところは必要かなと思います。

この画像でいえばですね、ここのフェンスの向こう側に、こちですよというふうなのがあって、カーブの先から住宅街の中に入っていくんですが、ここはやはりわかられないことが結構あるようです。

そういうところで、掲示のあり方について、一度やはり確認と見直しをしていただきたいという部分と、それとあわせてですが、地域の中を通っていくのでやはり地元のそこに住む方たちもやはり、この方たちはオルレの方かなと気にされる部分もあるわけですし、先ほどいったグラウンドゴルフの側を通って行ったりというの也被れるので、ある意味そういう人との出会いというのがですね、地域の人たち、地元の人たちがこちですよと案内するということも、おもてなしにつながるんじゃないかなというふうに思います。

ただ、コースの理解が周知できているかという部分もありますので、その地元の力をおもてなしという部分で高める意味でも、そういった地域の方とかオルレコースに関与するようなどころの人たちには、オルレについてのちょっとした説明をしたりとか、そういう理解を求めるような説明とか、そういったこともしていいんじゃないかというふうに思います。

その掲示とおもてなしという点で取り組みが必要と思いますが、その点について答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

（モニター使用）２点でございますので、お答えいたします。

まず表示のほうでございますが、御指摘の点につきまして、私どもも現場のほうにすぐ行きて確認させていただいたところでございます。

まず修正させていただこうと思う地点でございますが、画像のほうをお願いいたします。御指摘の点でございますが、赤丸をしているところが、先ほど議員に御紹介いただきました地点でございます。その赤丸のところからすぐに向かい側のほうのところに、今現在はオルレの表示がされております。

これでは安全性からも含めてですね、迷われる可能性があるということで、今後は赤丸の

ところから一旦左のほうに進んでいただきまして、そして安全性を確認した上でそれから渡っていただくというような表示に変更させていただきたいと思います。

これを初め、いろんな表示の仕方につきましては、常に点検しているところがございますが、いろいろと御意見がございましたならば、また私どものほうに頂戴できればというように思います。

それから2点目でございますが、おっしゃっていただきましたように、以前に韓国の領事館、領事と一緒に武雄のコースを歩いたことがございますが、そのときの御感想としまして、武雄の地元の方がどれだけ歩くかということが課題ですねというお話をいただきました。

したがって、先ほどお話をいただいたように、地元の方に御挨拶をいただいたりですね、それから御案内をいただくというような、そんなおもてなしが、非常にありがたいなというふうに思っておりますので、今後はぜひ、少しでもオルレコースを御理解いただけますようにコースの説明でありますとか、それから簡単な御挨拶程度の韓国語を御紹介する等ですね、積極的に地域のほうに入っていくって説明会等を行いたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、オルレのボランティアガイドの皆さん、地域の皆さんに対しましては、まずもって感謝を申し上げます。

たしかオルレというのは、家に帰る細い道という濟州の方言だったというふうに思います。そういう意味でも、やっぱり飾らないおもてなしというところが私は大事だと思っています。挨拶、声掛け、道案内、ぜひこのテレビを見ていただいている皆様にも、一言でもいいので、あと笑顔だけでもいいので、まずお願いしたいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

地元の方にも説明をしていくということで、その辺をぜひともお願いいたします。

この間私も地域の介護予防教室で、年配の方を対象に英会話というのをちょっと 10 個ぐらいしたんですけど、すごくこれいいねというふうな形で言われていました。今度韓国語でもやってよというふうな形で言われていました。

先ほど韓国語の挨拶とも言われましたが——すみません、スライドを戻してもらっていいですか——ケーブルテレビで武雄市役所だよりの、おもてなしイングリッシュというのがありますが、時にはおもてなしハングルというのがあってもいいのかなというふうに思っています。これは提案です。

表示のほうも見直していただくということもありますので、その辺ぜひよろしく願います。

たします。

部長のほうから、先ほど安全面のことについてお話がありました。これはその貴明寺の、入口のところですけども、道がこういうふうに蛇行しているところです。すごく、ここからこういうふうに渡ってこられるのですが、やはり視界が悪いところなんですよね。

オルレの場合、団体でも通られる場合があるので、団体ですらっと連なっていかれたときに、ちょっと大丈夫かなというふうなやっぱり心配もあります。

もちろん地域のほうでもこの辺の安全面についてを不安視する声もありますし、こちら側からですね——こちらという言い方はあれですね——国交省の官舎のほうから出てくるときもですね、ちょっと出入りがしにくい、危ないという面もあります。先ほどのオルレの部分でも言いましたが、ここの交通の分の安全対策というところもちょっと考えるところかなというふうに思います。

見ていただいてわかるように、中央線はですねほぼ消えています、この一角は。カーブなので、カーブに沿ってゆっくり行くだろうというふうなところがあると思うんですが、私も毎朝のようにここを歩いて通っているんですが、結構車もスピードを出しているような感じもありますし、この中央線がもう消えてなくなるぐらい、はみだしてやっぱり通っているという現状も実際にあります。

というところで、交通の分で安全面への対策が必要だと思いますが、この点について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

路面の標示による通行車両の減速対策やカーブミラー等の設置、ライン等の更新等で安全対策を講じていきます。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

この地区につきましてはもうおっしゃるとおり、私も通りましたが、どきっとするときに随分あります。

そういうことで地元のほうでもここは通学路にもなっておりますので、子どもたちの安全も含めてですね、地元住民の安全と、またオルレのお客さまに対する安全対策を講じるべきだと思います。

それで横断歩道等の設置についても考えられますので、地元の関係者あるいは学校関係者、それから観光課、警察署とちょっと協議をしまして、横断歩道がいいのか注意喚起の看板等がいいのかということで、さまざまな安全対策について協議をしていきたいというふうに考

えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

実際に体験されているというところもあって対策に動いていただくということで、ぜひともよろしく願いいたします。

あわせてではあるんですが、ここのカーブすごく蛇行しているのと、ここに看板がありますけど、冠水時走行注意という看板があるように大雨が降るとすぐに水につかるところです。こういうふうな形でもう歩道と高さがかわらない。これでも引いているところなんです。完全にもうこの辺一帯が水につかって通行どめになるようなところで、以前は車が入って行って動けなくなったというふうなところもあったんですが、結構通っていて、カーブなので多少の傾斜はあると思うんですが結構傾斜がきついのかなというふうなところもちょっとあります。

それによって、こことその手前のほうなんです、この警察官舎の前のところも、ここもすぐわかります。車がもう本当に通れないような形になりますので、ここの根本の水の流れというところも見直すことももちろん必要だとは思いますが、ここの冠水についてもちょっと対策が必要じゃないかというふうに思いますが、これについてはいかがでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘の地区については、我々もたびたび冠水しているということは把握しておりますので実際現地の調査、排水経路の調査及び道路の縦横断の見直しによる冠水対策ができないか、まずはちょっと検証したいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

部長言われたようにまず調査、確認をしてからというところが入口だと思いますので、まずその入口から取り組んでいただきたいというふうに思います。

それでは次にいきます。スター戦略の部分です。

画像は、武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略、もっと輝くスター戦略の基本目標 4、来てもらう・住んでもらうまちをつくるです。

その中の具体的施策（1）国内・海外誘客の中の具体的事業の中に、外国人観光受入環境整備事業（W i - F i 整備、サイン多言語化等）が書いてあります。

オルレにおいても観光においてもそうですが、今はやはり写真をとって SNS で投稿した

りとか、知り合いが投稿している画像、情報、知り合いの情報による口コミという部分が誘客に十分つながってくるというところもあると思います。

スター戦略にもこういうふうな形であがっていますので、この点について現在この整備事業についてはどのような状況にあるでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

スター戦略におきましての、特に観光客受入環境整備事業でございますが、それにつきましては御承知のとおりでございますが、県の補助金、それから市の補助金を利用いただきましてW i - F i 整備が進んでいるところでございます。

ちなみに 25 年度から現在までにつきましては、宿泊施設それから飲食店も含めると合計で 30 店舗の、30 カ所のW i - F i 事業が進んでいるということでございまして、こういった形で、観光客の受入の整備をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

オルレについては観光ガイドさん、オルレ以外にもでしょうけどいらっしゃると思いますので、ガイドをしているときに来られた方が、どういったスポットでよく写真撮っているかとかですね、そういったのもリサーチしてもらって、そういったのも整備の検討にさせていただくということもあるかなというふうに思いますので、その辺の情報収集もお願いいたします。

それでは、次の項目にいきます。就労支援についてです。

これは 11 月 23 日に佐賀大学のほうでありました、さかの未来を創る地方創生と人材育成シンポジウムということがあって、私も行ってきました。

佐賀大学のほうが、自治体などの地域社会と連携して地域の課題解決や、地域振興策への取り組みを行う地（知）の拠点事業、C O C 事業ということをされております。

またC O C プラス事業として、インターンシップなどを含めて地元の就職率向上のための教育や学部の強みをいかした研究など、雇用拡大や創出のための取り組みを、県内の武雄市を含め全 10 市 10 町と連携して行われております。

武雄市では、先ほどのスター戦略の中にも 1 の基本的考え方の 2、基本的視点の中で、本市の特徴は高校卒業後の転出数の 3 分の 1 程度しか大学卒業後に本市に戻ってきていないところにあるというところで、なかなか戻ってくるそこが課題であるというふうなところで挙げられています。

これもスター戦略の中で、基本目標 1 の仕事を創出し、所得を上げるの中にあります、具体的施策 3、就労支援の中に先ほど言いました佐賀大学であったように地（知）の拠点大学

による地方創生推進事業、COCプラスというふうなところが上がっています。

ほかの他市の事例等も拝見しました。まちの産物等をいかにPRして高めていくかとかです、いろんな取り組みが自治体と連携して行われていたりしています。

その前に言いましたように、地元就職率の向上のための教育改革ということで、地方に目を向けてもらえるような形の事業というふうなところを、佐賀大学さんが地域のほうと取り組まれています。

ということでここにも上がっていますが、武雄市としてこの大学との連携、COCプラス事業について現状及び今後の方針はどのようにあるでしょうか、答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

議員御指摘の地（知）の拠点大学によります地方創生推進事業、これにつきましてはCOCプラスという略称で呼ばれております。これにつきましては具体的には佐賀地方創生人材育成活用プロジェクトとして事業が佐賀大学を中心に進められているところであります。

お話をされましたとおり、県内の20市町が参加しているわけですが、これにつきましては本年平成28年2月20日にこの活用推進協議会が設立をされております。これにつきましては私のほうも出席をさせていただいております。

平成27年度の国の事業、文科省の事業として進められているというふうに承知しております。その後、今年度平成28年度といたしまして、7月には総会が行われているという状況でございます。この事業につきましては平成32年3月31日までの5カ年の事業として取り組まれているという状況でございます。

武雄市のほうも、佐賀大学と地方創生にかかります連携協定を本年3月に結ばせていただいております。

現時点ではまだ1年目ということもございまして、具体的なテーマを掲げた事業は行っておりませんが、現時点ではこの協議会に参加をし、さまざまな構成団体からの御意見そういったものをお伺いしながら情報収集を進めていくというような状況でございます。

今後この雇用創出にかかりますさまざまな課題が当然ございますので、その中でこのスキームを使って活用できる研究あるいは事業がございましたら、それにつきましては、検討を進めてまいりたいというふう考えております。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先日ある方から、小城羊羹だったかどうか、大学生がかかわってこれまでにないものが生まれたというようなお話を聞きました。

やはり大学生がこういったまちづくりにかかわるといのは、私は非常に市にとってもいいことだと思っています。やはり新しい新鮮なアイデアをもらえるというところもありますし、継続的にかかわってもらうことでまちも活気づくと。さらにはそれがきっかけで武雄でじゃあ働こう、起業しようといった話にもつながるのではないかと考えています。

今後、具体的な検討という話ありましたが、地方創生の武雄市の懇談会ですね、そちらにこのさっきやった佐賀大学の五十嵐教授さんも入っていただいておりますので、具体的に話を五十嵐先生として、何ができるのかということで、動いていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

佐賀大学とも連携協定も結ばれているということで、今後の情報を見ながらということと、市長も言われたように、やはり組んですることによって大学生が訪れてまた武雄で体験したりとかですね、そういったことも今後の武雄の活気とか雇用にもつながってくる部分はあると、私も考えています。

武雄市が考える課題と、この事業というところが一致すると思いますので、ぜひとも前向きな形で進んでいただけたらというふうに思っております。

それでは次の項目、健康づくりについてです。

健康づくりについて、武雄市も小松市長のもと健康寿命延伸という形で、柱を持って取り組まれています。武雄市の財政としても、大きくは国民健康保険のことも関係します。保険者数の現状もあり、運営的にも厳しい状況もあるというところで、今後の運営についても気になるところであります。

その中で、この項目にある健康づくりを考えたときに、国民健康保険の分を見たときにも1人当たりの医療費の増加とかというものもあったと思います。

というところで、まずちょっと国民健康保険の状況についてどのようにあるか、答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

（モニター使用）モニターのほうをごらんいただきたいと思います。武雄市国民健康保険の加入者数と、1人当たりの医療費の推移をグラフ化したものでございます。平成23年度から平成27年度までの4年間の推移を示しております。

下の棒グラフのほうでございますけれども、加入者数の推移でございます。平成23年度は1万3,484人でしたが、平成27年度につきましては1万2,144人と約1割、

1,340人の減少というふうになっております。

上のほうの折れ線グラフでございます。加入者1人当たりの医療費の推移を示しております。年々右肩上がりの増加をしております、この4年間で約5万5,000円、14%の増加というふうになっております。

この円グラフにつきましては国保加入者の年齢階層別の割合を示しております。ごらんいただきますように、60歳以上の方が全体の約半数以上の54%を示しております、高齢者の方が多いという状況でございます。

加入者数につきましては、年々減少いたしております、加入者に高齢者を多く抱えているという国保特有の構造的な問題から、保険税の収入増については見込めず、医療費の増加に見合う財源の確保が難しいという状況が続いているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

医療費の増加に見合う財源の確保は厳しいというふうなところがありました。そうなったときにやはり、なかなか難しい面もあると思いますが、健康づくりというところを一人一人がそこを認識していくということが、もちろん私も洋服に合うような体形にしないといけないうのもありますが（笑い声）一人一人がやはりしっかり認識していくことが大事だと思います。

その周知ももちろんしていかないとはいけません、今朝8時過ぎに市役所に来たときに、2階にあがったときに左が健康課さんですかね、武雄たっしやか体操を朝礼前ですかね、されていました。すごくうれしかったですし、すごくいいなというふうに思いました。そういうふうに日々体を動かすということが、やはりいいと思います。

画像に出したのはフレイルというところで、現在、日本老年医学会によって提唱されている言葉です。

いわば体が高齢とともに段々弱くなって筋力も低下、活動性も低下、身体的な部分だけじゃなくて認知機能の低下とかです、ね精神活動の低下、そういったことが健康状態を落としていって行く、いわゆる日本語でいう虚弱という状態、これをフレイルというふうな形で言われていて、この状態になってくると要介護状態につながっていきますよと。そのために、このフレイルということについての早期発見、対処が必要ですよということが言われています。

評価で上がっています、体重が減ってないかとか、筋力が減っていないかとか、疲労感とかこういうことが評価方法でありますし、ほかにも介護予防事業の基本チェックリストも評価に活用したいというふうなことも上がっています。

今まで私もロコモという部分で話をしてきました運動器系筋肉、骨関節という、そこが弱くなってくると支えが必要になってきますよということで、ロコモ予防ということを佐賀県

でも一生懸命していますが、言ってきました。ある意味そのロコモもこのフレイルの中に入ってくると思います。

それですね、国のほうでも、厚労省のほうでも高齢者の虚弱、フレイルに対する総合対策、これが必要だとかですね、平成 29 年度の予算概算要求の概要から引用ですが、この中でも健康で豊かな老後を送れる健康寿命の延伸に向けた取り組みということで、フレイル対策ということも実際上がっております。

国のほうも、こういったところが取り組みとして必要だというふうに言ってありますが、まずこの国の動きについて、どのように情報があるのでしょうか。その点について答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大宅くらし部長

○大宅くらし部長〔登壇〕

国の平成 29 年度の予算の概算要求の段階でございますけれども、安心につながる社会保障の施策の中で、健康寿命の延伸に向けた取り組みの 1 つとして、今、議員ございましたフレイル対策が上げられております。国からの詳細な対策については、いまだ示されておられません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

まだ詳細は示されていないということですね。詳細が出てきたら、それを見ながら市としても動けるところは動きながらというところで。

実際、健康課さん等とも話をしている中で、今もいろんな保険事業とか、その中で先ほどのフレイルの部分での、例えば予防としてタンパク質をとりましようとか、栄養が大事ですよとか、感染予防に努めましようとか、薬の量が多い人は主治医と相談ましようとかというのが予防で上がっていますが、いろんな場面でそういった話はしているということで話もありました。

私も以前その病院とか施設でリハビリ職員として働いていたときに感じていたのは、高齢の方は余りこう痩せているよりも少し何というかな、体重が減少していないほうが体力もありやすいんじゃないかなというふうなところも感じたところがありました。もちろんそれがすべてではないんですが、そういう中で、こういったことを周知していくことは必要かなというふうに思います。

先ほど言いましたように、いろんな場面で話をしているというのもあるんですが、ひとくりにフレイルというふうな形で、内容をまとめて話をしたほうが、受ける側もいろんなことがそれぞれの場面で話し合うよりも理解しやすいというか、わかりやすいんじゃないかな、

伝わりやすいんじゃないかなというふうに思います。

ということで、国の動きは今後見ないといけないんですが、武雄市としても積極的にフレイル予防というふうなことで動いていったいいのではないかなというふうに思いますが、この点についていかがでしょうか。答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も不勉強でフレイルという言葉を実は知らなくて、今回こういうことだなということで認識をしました。簡単にいうと、健康な状態と要介護状態の間という、ざっくりいうとそういうことなのかなと思っています。

食事とか運動、例えば運動であれば身近な健康教室ですとか、健康ポイントを活用したウォーキングとか、そういったところを進めていくことだと思っています。

健康教室については脳のやつと、音楽とあと百歳体操ですかね、去年と比べて箇所も3倍にことはふえていると思っています。まずは身近でできるところを、数を来年度からもさらにふやしていくということかなと思っています。

加えて、やはり家から出ると。やっぱり家にいると心も体も弱りがちになってくると思います。身近でいけるところをふやすという意味でサロン、今も市内でふえてきていますけれども、そこをさらにふやしていくというところに取り組んでいきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

そういった事業を進めながら、先ほど言いましたように、例えば運動の教室であっても、こういうふうな形で栄養も大事なんだよというふうな形で、まとめて理解しやすいような周知の仕方というのを取り組みとしてあるんじゃないかなというふうに思いますので、こういった形で周知していくことによって、先ほど言いました医療費の増加の抑制に少しでもつながればというふうに思いますので、今後も保健活動の際にはこの辺、御検討いただければというふうに思います。

それでは最後の項目ですが、情報発信についてです。

ことしの4月より、武雄の魅力や強みを外に向けて効果的に発信し全国の関心をさらに集め、そして全国からより多くの方に移り住んでもらうため、そしてシティプロモーション室が設置されました。

私もすごくシティプロモーション室、期待しているところです。というところで情報発信はとても大事だと思いますし、同じように市民の方からもどんどん積極的な発信が必要という声もよく伺います。

そこで、シティプロモーション室も4月の設置から半年以上がたちましたが、現在の取り組み状況及び今後についてどのようにあるか、答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

シティプロモーション室の大きな目指すところにつきましては市外の方に武雄市に移り住んでいただく移住、それから市民の方々の流出を防ぐため、定住、この2つを大きな目指す目標にしております。

そのためにはということで、3つの柱で現在、事業を進めております。

1つは情報発信力の強化、議員御指摘の項目でございます。そしてメディアの活用。これは情報発信力の強化ともかかわります。それと武雄ブランドの構築、この3つの柱を掲げているところでございます。

具体的にはこの間、市民の皆様方からの御意見、高校生からの御意見等もいただきました。我々はいよいよデジタルのほうに走ってしまっていますが、アナログでの情報発信も必要だという高校生からの提言等もございました。

こういったことも受けまして、民間との連携ということでポスターの掲示、これはゆめタウンさんのほうでも掲示の場所を設けていただきまして、こちらのほう、それから高校生からの提案等も受けまして、武雄高校の校内でのポスターの掲示、こういったものもこの間、取り組ませていただいておりますし、また市民の皆様方からの告知の展開、加勢すっ隊ということで手を挙げていただきまして、御協力をいただいているといったところを進めております。

また市のほうでは、議員の皆様も御存じのとおり武雄ムービー大賞というのを取り組ませていただいております。現在、第2回の募集を行っているところであります。

これにつきましては第1回、35作品が寄せられたところでありまして、市民の皆様あるいは市外からの応募もいただいたということで、我々のほうも大変うれしく思っておりますし、これを活用していかなければいけないというふうに思っております。

これらの方策を一つ一つ進めていくということが重要であるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

情報発信の強化、メディアの活用、武雄ブランドの構築ということで、その中でももちろん、デジタルだけでなくアナログも必要だということですね。

武雄ムービー大賞、私も第1回は応募しましたが入選はしませんでした。第2回は考え中

です。

その中で今、先ほど言われた武雄ブランドの構築ということがありました。これもスター戦略なんですけど、基本目標1の中の基本的方向の中に農産品、特産品のブランディングということがあります。私もやはりブランド化というのはすごく大事だと思いますし、そこを切り口にした武雄の広い魅力発信というところもあると思います。

まず、この部分のスター戦略のブランディングということについて、現状どのようなところでしょうか、答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えいたします。私どもも、ブランド化につきましては非常に重要だというふうを考えております。

農産品のブランド化につながる現在の動きとしまして、幾つか御紹介をしたいと思います。まず御承知のとおりでございますけども6年間特Aを連続しております、さがびよりでございますが、昨年は都内の百貨店で市長みずからトップセールスを行っていただきました。それから6月18日には、県知事と武雄市長と一緒に田植えをしていただくというような取り組みも行っています。

それから、先ごろの12月1日の田んぼのオーナー制度を利用してシンガポールからの旅行者に御説明したという状況でございます。

続いて、25年度から生産者の皆さん方と販路開拓を行っておりますパクチーでございますが、パクチーにつきましては特にパクチー専門店のほうから取引が始まっておりまして、好評いただいております。特に武雄産パクチーにつきましては本場のタイに変わらない香りと品質がいいという形で評判いただいております。それが寄与いたしまして、10月には大分でも有数の食品会社によりまして、武雄産パクチーを使いましたパクチーペッパーが発売されているところでございます。

それから、しょうがについてでございますけども、武雄市商工会青年部が昨年度から山内産のしょうがを使いまして、ジンジャエールの商品開発に努めております。

現在、またいろんな研究施設とか市場開拓に向けて研究しているところでございまして、私どももその支援をしているところでございます。

そのほかには素材探しも行っておりまして、里山資本係を中心に、積極的に薬用作物を含めていろんな作物を研究しているという状況でございます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

静かに、静かに。

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

今、話がありました。私も今ここへ上がっているように、若楠ポークという部分もブランド化という部分は私もあるべきところかなというふうに思いますが、そういうふうに取り組んでいって、やはり魅力を高めてそれをいかに発信していくかということが大事だと思います。個別の分もあります。

シティプロモーションとして考えたときに、やはり最初、冒頭言われましたように移り住んでもらう、流出を防ぐ、定住してもらおうということもあって、武雄としての魅力をどう高めるか。ある意味、武雄をいかにブランド化するかというところもあるのかなというふうに思います。

個別じゃなくてもカテゴリーとして例えば武雄の食としてというのものもあるでしょうし、広い視点でも武雄の都市として見たときの取り組みというのものもあるのかなと思います。

私はこれまでも、武雄は交通の要衝でもありますし県西部の拠点土地にならないといけないうふうに思いますというふうなことも言いましたが、こういう形でシティプロモーションということで武雄をブランド化、広く視点をもって取り組んでいくということについてはどのようにお考えでしょうか。答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

武雄市には、一つ一つが磨かれないものがたくさんあると。それを武雄市イコールそういった連想をしていただく。ひとつのものを買おうとしたときには、武雄産というふうに消費者の方が連想していただく。これがブランド化の究極だと思っております。そこが経済の活性化につながると。

そういった意味でブランド化というのは、あらゆる武雄産、武雄にあるもの、観光も含めまして非常に重要なことだというふうに思っております。

議員御指摘のとおり武雄全体を見たときに、ブランド化の重要性、これを行政のみならず実際にそれを生産されている方、あるいはそういうサービスを提供されている方、民間の皆様方のお力、これが不可欠でありまして、そういう民間の方々とともにこのブランド化というのは進めていく必要があるというふうに認識しております。（「若楠ポークは」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

今の点、ちょっと市長もその点についてどう武雄のブランド、魅力というところを主にあるかということでちょっと答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほども、まずブランド化の話ですね。若楠パークというところは、さっき抜けておりましたけれども、ここについては議会でも答弁をしております。当然ブランド化をしっかりやっていくというふうに、私から申し上げたいと思います。

今の御質問に対しまして申しますと、ブランドを誰がつくるかという、やっぱり外の人認識して初めてブランドになると思っています。

そういう意味ではやはり強みを生かして差別化をするというところで言いますと、やはり一つは図書館というのがありますし、そこを広げていくと教育、さらに今度はこども図書館もできますから子育て、そういったところが1つ武雄は差別化になるのではないかというふうに考えております。

もう一つは、先ほど議員おっしゃったように西九州の中で見ますと、今後は平成34年に新幹線が開業いたします、要は武雄は長崎と佐世保の結節点になるわけですね。歴史的に見ましてもやはり肥前の国というのを考えると、佐賀と長崎の結節点でもあると、そういうふうな位置にあると思っています。この地理環境を生かして、そして新幹線が開業することも生かして西九州のハブ都市というところは1つブランドとして打ち出せるのではないかと考えております。

そのためには住環境ですとか雇用ですとか、そういったところを上げていかなければならないというふうに思っております。

大きく分けて私はこの2つが今の武雄の、そしてこれからの強みだというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

ほかの地域になく武雄にあるものを発掘していかにそこを磨き上げていくか、情報発信していくかというところは大事ですし、今市長が言われた西九州のハブ都市、その言葉というのはすごく大きいところかなというふうに私は感じました。

そういうふうな視点を持って、ビジョンを持って取り組んでいくということが、またブランド化にもつながっていく、魅力アップにつながるんじゃないかなというふうに思います。ぜひよろしく願いいたします。

それでは次ですが、シティプロモーションで移り住んでもらう、移住ということがありました。これまでも移住ということについて話をしたときに、なかなか遠いところに住んでいらっしゃるって、仕事をやめて移り住んでもらうというのは、なかなか若い世代ではハードル

もちょっと高いところもあります。

そうなったときに近隣の自治体のほうからですね、仕事は変わらないで住むところを武雄のほうにとか、そういったところは遠いところから来るよりもハードルはまだ低くあるのかなというふうに思いますので、アナログの取り組みということも言われましたが、そういった点で、例えばホームページもあります、ホームページでの武雄の紹介もありますが、ホームページはやはり武雄市というのを入力してもらって、その心理的行動が伴ってのホームページを見ると思いますので、そうではなくて、それももちろん大事ではあるんですが、積極的に近隣自治体に出向いて行って武雄のことを紹介する。武雄を意識していなかった人でも、武雄のことは何かあっているっていうのが自然に見えるような形で行ってもどうかと思います。

私の元会社員時代の同僚でも佐世保から通っている人もいたし、波佐見から通っている人もいます。大村から通っている人もいました、武雄のほうにですね。

そういった形でなかなか佐賀県内で動くというのは難しいかもしれませんが、例えば佐世保とか波佐見とか大村とか長崎とか、そういったところに観光という部分だけじゃなくて、これは以前も言葉として出したことあるんですが、例えば教育とか移住相談ということも含めて、武雄市の紹介としてどんどん積極的に出向いて行ってPRという手法もあるんじゃないかというふうに思います。この点について答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

現在もさまざまな機会を捉えて教育あるいは移住含めまして、これまでもさせてきていただいたところであります。

シティプロモーションという新しい組織ができたということで、こういったものもトータルとしてあるいは移住、教育あるいは観光あるいは住むということそのものについてもトータルでの提言はできるかというふうに思っております。

近郊について、そういう協働して出店できるチャンネルがあれば、経費の問題等もございしますので、単独でとなりますとかなり負担もふえるということになると思います。

しかしながら効果を狙うということになれば、行政のみならず関係する民間の皆様、市民の皆様あるいは事業者の皆様、こういった皆様とも連携をする必要があろうかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね、単独が難しい場合は、周りと連携しながらということもあると思います。

やはり、例えばイベントみたいな形で出向いて行って紹介しながらとなったときに、やはりその現地の人はですね、武雄の人とこうやって対面してお話することによって、やはりデジタルでは感じられない温かさとかそういった得られる部分があって、またそこが武雄の興味によりつながるんじゃないかというふうに思いますので、こういった点は積極的に行って行っていいんじゃないかというふうに思いますので、今後検討のほうよろしく願いいたします。

最後です。

今、イベントという形のお話をしました。武雄市内でもイベント、いろいろあっています。私もイベント関係者、プロデュース関係の方とも話をするんですが、言われるのはやはり司会者すごく大事だと。武雄もすごい司会者がいらっしゃいます。すごいないつも感心するところがあるんですが、やはりその関係者も言われていた部分は、やはり司会がどういうふうにあるかという見せ方、見え方が全く違ってくるということは言われていました。

武雄市も例えば県の広報CMとか、ほかの市のCM、広報に出ていらっしゃるタレントさんもいらっしゃいます。そういったタレントさんをですね、せっかく武雄にいらっしゃるんですからうまく活用するというのも私は必要ではないかと。それが武雄のイベントのまた魅力を高めていくことにもつながるんじゃないかなというふうには思いますが、この点いかがでしょうか。答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ぜひ積極的に活用してまいります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。そういう形でシティプロモーション、すごく私は期待していますし、一つのカテゴリーじゃなくていろんなところをまとめながら、武雄をより魅力あるものにしていくように動いていただきたいというふうに思います。

それでは、これで私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で1 番豊村議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、5 分程度休憩いたします。

休 憩 11時04分

再 開 11時13分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に4番山口等議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから山口等の一般質問をさせていただきます。

一般質問もいよいよきょうで最後であります。最後の最後であります。内容等が重複したところも多々あるようでございますが、私なりに質問をさせていただきます。

今回は大項目で3項目。1つ目にまちづくりについて、2つ目に道路行政について、3つ目に子育て支援についてお伺いをいたします。

では、早速質問に入らせていただきます。まず初めにまちづくりについてであります。

平成10年に市の事業として始まりまして、武雄北部土地区画整理事業が松原交差点付近から小楠の交差点付近までがようやく完成形が見えてまいりました。

これは現在工事が進んでおります松原の交差点であります。これが今年度中に三灯式の信号機がつくような予定であるそうでございます。これは西浦の交差点ですね。佐賀銀行さんがきれいになってほとんど整備が終わったところの写真です。JRの線路で南北が分断された市街地の風通しをよくするために行われた高架事業。これまで市の中心部の活性化を実現するためにいろんな計画立案がされてまいりました。

しかし、道路整備等が進んではいくものの商店街におかれましては、時代の厳しさをまともに受けたような気もいたします。区画整理事業がまもなく終わろうとしておりますが、市は駅北口の北部商店街を含んだところのまちづくりについて、現在どのようなことに取り組んでおられるか、まずお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

井上営業部長

○井上営業部長〔登壇〕

お答えをいたします。議員御指摘のとおり、駅の北部の地域でございますが、これにつきましては、この画面に上げておりますように南は保養村から、それから競輪場、それから図書館、新しくできます市役所、そして中心の駅、新幹線ができますので、それまでの時期にぜひ活性化を図るべきという地域でございます。

これまでの取り組みを御紹介したいと思っておりますが、平成27年度下期から松戸市を中心としましたまちづくりの実績があります事業者に委託をいたしまして、まちなみ創造事業という形で取り組んでおります。

平成27年度に取り組みました事業といたしましては、まちなかの中町でございますが、そちらのほうの空き家をお借りいたしまして、まちづくりの拠点づくりをいたしております。

それから、武雄市の北部市街地の文化の歴史等の資源調査を行っているとのことでございます。そして、この拠点を中心としまして現在も活動をしているという状況でございます。

今年度 28 年度に入りました取り組みでございますが、28 年度につきましてはプロジェクトのロゴを作成いたしまして、それからまちづくりの運営事務局という形で設置をいたしまして継続的に活動ができるという体制をとっているところでございます。

それから、ワークショップの開催やクリエイター・イン・レジデンスという形でしておりますが、その御紹介でございますけれども、これがワークショップを……（発言する者あり）座談会でございますね。そういった形でワークショップをしておりますが、こういう形でのご紹介でございます。

それからウェブサイトという形でホームページを中心に、TAKEO MABOROSHI TERMINAL という形で検索してやりますと、その取り組みが紹介をされているところでございます。

こちらの市街地域、特に武雄のまちにつきましては、一定の期間滞在をしていただいたほうがより武雄のよさをわかっていただくということで、クリエイターといまして芸術家ありますとか、そういった方々を一定期間武雄に泊まらせていただいて、その方々が情報発信をしていただいたり、このように地域の方とお話しをしていただいて、その活用でありますとか、または伝統的に発生しております武雄のそういった技術等の組み合わせといいますか、新しい何か創造ができないかという形で取り組んでいるところでございます。

現在の平成 28 年度の取り組みは以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

まちなみ創造事業、武雄のよさを引き出させていただいて、今、取り組んでまだ 1 年くらいということで、あと 1 年ぐらゐすればいろんな成果が出てくるのかなということで期待をしております。

これは今回の質問の中の初日でしたかね。2 番議員さんの方からも写真が出たんですけど、これは武雄温泉駅北口のちょうど出たところの横断歩道の前の写真です。やっぱり武雄といえば温泉というイメージがやっぱりあると思うんですよね。そこでやっぱりここにイメージアップまたはインパクトのある、そういうパネル等をぜひ掲げられないかなということをお自身も再度お願いしたいと思います。

前回の答えは何か構造物といいますか、そういう看板類にもいろんな規制があつてできないというようなことは言われておられましたけれども、そのエリアをちょっとこう外したところでもぜひそういった武雄のシンボルである温泉等をイメージした看板等の設置をできたら駅のホームからでも見られるような位置に設置できないかどうか、再度、市長どうでし

ようか。お答えをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ここの看板設置については規制があるという話はありませんけれども、要はあれですよね、ここに武雄温泉があるというところをどういう方法で知ってもらうかというところだと思います。

そういう観点で看板がいいのか、ほかのことがいいのか。ちょっとそこはぜひ考えさせていただきたいんですけども、少なくとも新幹線も今後来ますので、しっかりと見てわかるような仕組み、これを考えていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。ようこそ武雄へ。また、温泉のまち武雄へようこそ。焼き物とお湯を楽しんでください。この花壇といいますか、植栽の升の花植えは武雄小学校の5年生が、これをもう4年間ぐらい続けて活動をしてきております。子どもたちも子どもたちなりにまちづくりに取り組んでおるんですけども、武雄市は平成29年度の末には新庁舎もできます。また図書館、こども図書館も来年10月にはオープン予定でございます。そして競輪場も新しくリニューアルされました。また、保養村もあります。

こういった動線の中で新しい武雄市のまちづくりを市長自身どのように考えておられるのか、まずお答えください。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

一言で言うと、歩いて楽しいまちにしたいと、回遊性を高めたいというところであります。そういう意味でこの点を、線に面に広げていくと、ここを今後考えていきたいとそうように思っています。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

この子どもたちが今11歳です。あと10年、15年すれば恐らく武雄の地でいろいろ頑張ってくれる方もおると思います。また、お盆とか正月に帰省する人もおるでしょう。こういった方たちが夢を持てるような武雄市に、ぜひして欲しいと思います。よろしくをお願いします。

それで、これはちょっと早いような気がしますけれども、西浦の交差点に掲げてあります

武雄温泉春まつりの看板です。これは来年の4月に開催されますけれど、これも武雄町のまちづくり協議会の方がいち早く、やっぱり市民の方いろんな方にお知らせしようということ掲げておられます。こういったことでまちのにぎわいを早目にお知らせして、一人でも多くの方に歓迎していただくような行事を取り組んでおられます。

この関係なんですけれども、これはちょっと前回の13番議員さんですかね、ちょっとかぶってしまいましたけれど、武雄市協働まちづくり地域交付金についてお伺いいたします。

この交付金は1期、2期がトータル1億4,000万ぐらいの金額を使っていたかまして、いろんな各町が潤いある地域活動をやっておられます。

それで今年度、28年度でとりあえずは2期目の分の交付金が終わるということで、先日も御質問ありましたけれども、市長の答弁としてこのまちづくり交付金と武雄市がんばる地域応援事業補助金、これをタイアップして同等ぐらいの金額を交付していきたいというふうなお言葉をいただきました。もう来年度の計画もそろそろ必要であります。

ぜひ市長、同等ぐらいのじゃなくてはっきり言って、もう同額の交付金をお願いしたいと思うんですけれども市長どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

地域の皆さんの自主的な活動、まちづくりの活動を支援するということについては引き続き私も大いにやっていきたいと考えております。

そういう意味で地域交付金、今はあわせて、がんばる補助金とありますので、そこについては趣旨が重なってくると思いますので、そういう意味で地域の皆さんの自主性を支援するという意味で交付金、補助金をあわせてそこは同程度、繰り返しになりますけれども、同程度3年間は考えていきたいとそのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。武雄町まつりづくり推進協議会では研修検討委員会で先日行いました武雄中学校で中学校2年生と一般の方が会話を行うトークフォークダンス、これ非常に好評でした。子どもたちとか生徒が約200人ぐらいおるんですけれども、百二、三十人の一般の方が来られて、本当に中学生の方ともなかなか我々も面と向かって話すような機会というのはほとんどないんですね。しかし、本当にいろんな意味で、いい会話が、いい話できたなということで皆さん関心を持って喜んでおられました。

こういったことを私もぜひ続けていきたいと思っておりますので、同等の金額、今300万ですかね。ぜひ同等金額の交付をよろしく願いしておきます。

次に、みんなのバス。これも初日、川原議員さんでしたかね、ちょっと質問がありました。これも平成 22 年から 9 月から試験運行が始まってもう 6 年になります。それで北方、今は山内、若木、武内で現在運行中でありますけれども、改めて現在の利用状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

（モニター使用）スライドのほうをお願いいたします。みんなのバスの利用状況でございます。平成 25 年度、26 年度、27 年度についてグラフのほうをお示ししております。平成 27 年度につきましては 1 車当たり 1.4 人、それから利用者の数にいたしましては 8,755 人の皆様に御利用いただいているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4 番（山口 等君）〔登壇〕

ちょっと戻してもらってよろしいですか。

今ありましたけれども、平成 25 年度が平均の 1.9 人、そして昨年度ですね平成 27 年度が 1.4 人ということで、以前言われていました 2 人を切ればですね、なかなか運行自体もどうなのかなというふうなことが懸念されるというようなことを聞いたことがあります。

そんな中で、今このみんなのバスというのは、地元でどんな方法が一番いいのかということで協議して、運行計画をつくっておられると思います。

そんな中で、実際こういった状態の乗車人数ということでは、やっぱり住民のニーズに本当に合っていないんじゃないかということを私自身思うんです。だから、本当に根本的な見直しが必要じゃないかと思えますけれども、市長どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

みんなのバスにつきましては、議員御指摘のとおり運行のコース、時間、これにつきましては、地域の皆様方の御協議を踏まえて設定をされてきた経過がございます。当然、試験運行、それから平成 25 年度からの本格運行以降も、地元の方々からの御意見等も踏まえてバス停のほうを少し修正したりとかそういったことも経過の中ではございます。

地元の皆様方の利用しやすいバスの時間、そういったことについては引き続き御協議いただければ、それに沿った対策をとっていく必要があるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4 番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

先日の質問に対する答弁の中にも、オーダーメイドの時刻表を作成してみんなのバスと、また巡回バス、この乗り継ぎ等をきちっと作成して、住民の方の少しでも多くの方に乗車していただきたいという対策ですか、対応策を考えているというような話もありましたけれども、本当にこれだけ1,300万ぐらいですかね年間、経費を使っているようなみんなのバスです。本当に1人か2人の乗車じゃなくて、もっと皆さんが利用できるようなシステムを再度検討してつくってほしいと思います。

次のまちづくりの次の質問ですけれども、高齢者の免許証の自主返納についてです。

これも一番最初の議員だったと思いますけれども、質問がなされておりました。本当に今回の内容がかぶってしまっただけで質問をしにくいんですけれども、今は本当に社会問題になっているこの高齢者の交通事故です。

今の高齢者の事故の状況、どういった内容でどれだけ件数があるのか、再度確認をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

高齢者の事故件数ということでございまして、19番議員さんのほうにお答えしたのとかぶりですが、事故の件数につきましては、佐賀県で8,561件のうち高齢者の事故件数については1,685件。武雄市におきましては476件のうち101件ということで、全体では21.2%、5件に1件が高齢者という状況になっておりまして、事故の内容につきましては前方不注意、それから優先進行妨害、安全不確認などが主な事故原因となっております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

だんだん年齢とともに反射神経も反応も鈍ってきます。そして我々も後方から行ったりするときには、やっぱりもう出るんじゃないかなという車がなかなか出なかったりですね、恐らく今回は発進しないだろうというときに急遽発進されたりとか、そういう本当に不具合のある運転をされている方も非常におられます。

ただ、今、社会問題になっている高齢者の事故なんですけれども、免許の更新については、80歳前後になれば本当に返納すべきか、また更新すべきか迷われると思います。交通事故等で、家族のことを考えればやっぱり返納すべきじゃないか。それともやっぱりどうしても車が足になっておりますので、孫たちの送迎もできないというようなことでは困るということで、やっぱり更新を選ぶという方もおられると思います。

そんな中、返納者に対しての特典、市の対応は今後どのようなことを考えておられるのか

お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川総務部長

○北川総務部長〔登壇〕

これにつきましてもお答えをいたしました。やはり高齢者が返納をするということにつきましては、個人の問題、それから周辺の心配という中で返納をしていただいているわけですが、こういった判断をするに当たって返納をすることで何かの恩典があれば、じゃあこの際やりましょうかというようなきっかけにでもなっていればということで、特典を考えていきたいということで、市長もお答えしましたが、この返納をして証明書をいただくにも証明書の手数料等がまた必要になります。

それから返納することで全く動けない、足がなくなってしまうと。足といいますか、交通手段がなくなってしまうというふうな方もいらっしゃると思いますので、一時的ではありますがタクシー券の一時的なチケットの配付とか、いろいろ各市町で取り組みをやっておりますので、そういったものを研究させていただいて、できるだけ早い機会にそういった特典についても御紹介できるような整備をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今、タクシー券とか出ましたけど、どうしても何らかの特典がないとこの返納という気持ちになかなかないと思うんですね。さっきも言いましたけれども、やっぱり車は生活の本当に足なんです。この車がないと動けないという実情があるものですから、それにまさるような、ああそれなら俺も返そうというふうになるような施策をぜひ考えてほしいと思います。

これは先日の佐賀新聞にちょっと載っていましたが、高齢者の運転ということの中の記事をちょっと私確認してみたら、ああこういう考えもあるんだなということを感じたものですからちょっと確認します。免許の期限が切れた朝、車のない生活を実感したと。寂しい、悔しい、情けない、恥ずかしい、自分が世の中の半人前になったような気がする。

しかし心のどこかに、これからの俺は交通事故の加害者になることはないということで安堵感を感じたと、こういったことも思われる方もおられます。やっぱり勇気といいますかね、そういうのを持ってやっぱり決断する。免許証を返さないかんというふうな気持ちになって、そういうのをやっていただければまた違った気持ちにもなっていたらいいのかなということを感じます。

ただ、これから先の高齢化社会はどんどん進んでいきます。やっぱり今言われていますけれども、法の整備が急務じゃないかなと思いますけれども、市長どう思われるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ここは、法整備については、まさに今お話しされました認知検査でしたっけね。さらに道路交通法で規制をされると、来年の3月だったか4月だったかにされるというふうに認識しております。

そのさらに先に、こういった問題に対して対応するのかというところはあると思うんですけども、やはり私としては何らかの法整備が必要であるというふうに思っております。

ただ法整備をするに当たっても、そこは地方の地域の状況をしっかりと踏まえた法整備が必要であるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ほんとにこれから先は、高齢者の方もふえてきます。ぜひ法整備もきちっとされ、自主返納がふえることを望んでおります。

まちづくりの最後の地域コミュニティについて、ちょっと質問をさせていただきます。

ことは、いろんな災害が多く発生いたしました。台風や地震、また集中豪雨ですね。こういったときに必ず出てくるのが避難所生活のこと、そういったことがすぐ話題になるわけなんですけれども、そういったときに必ず出てくるのが、地域コミュニティが一番大事というようなことをよくいわれます。この地域コミュニティというのは、なかなか簡単にすぐできるようなことじゃございません。

それで我々の取り組みなんですけれども、今、毎朝ラジオ体操を6時半からやっております。この近くの天満宮で6時20分ごろですか集合しまして、いろんなお話をしながら毎朝、体操をやっているわけなんですけれども、約大体今20名ぐらいの方が参加をされております。こういった中で始まる前の雑談10分足らずでございますが、日ごろの日常会話の中でいろんな話ができて、またこの中には80後半の方も毎日見えておられますけれども、そういった方が2、3日ぐらい体操を休むようなことがあれば、やっぱりちょっと体調が悪いんじゃないかというようなことを皆さん気遣っていただいて、家を訪れて元気しとうねというような声もかけられておるようでございます。

こういった毎日の取り組みの中で地域コミュニティを盛り上げていくわけなんですけれども、市長こういった取り組みをどのように考えておられるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

やはり人がいてコミュニティができて、コミュニティがあつてまちができて、まちができ

て市があるというふうな考え方は大事だと思っております。まさにこういったコミュニティ活動は大事だと思っておりますし、していただいている、関係性をつくっていただいていることに感謝を申し上げたいとそうように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

このラジオ体操の仲間、今回の武雄市のくらし政策課ですかね、健康ポイントの参加も皆さんにいただいております。非常に喜んで参加をされておりますけれども、だんだん仲間もふえつつありますので、ぜひこのことは続けていきたいなと思っております。

そしたら次の2つ目の道路行政について質問をさせていただきます。

市道の歩道確保なんですけれども、これは今現在、工事中の武雄中学校の北側の市道山下中学校線の工事です。ここの南側には、ごらんのように歩道が今、設置をされております。これ南側ですね。これも歩道が、ちょっと幅員が狭かったものですから、今回ちょっと広めになるように、少し車道を北側にふって、現在、改良が進んでおりますけれども、この北側こっちのほうですね、この北側の水路があって、これが現状の水路なんですけど、幅的には大体1メートル50ぐらい幅員があるんですけれども、ここのところを歩道に活用できないか。それとまた、歩行者の安全確保をできないかということなんですけれども、担当部としてどのようにお考えなのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

現在施工中の舗装修繕工事において、中学校側の既存の歩道を若干ではございますが、拡張しております。こちらの歩道を利用させていただきたいと思っております。

水路事業を利用した歩道設置については、現時点では整備は考えておりません。今後通行状況等を注視して、歩道の必要性については検証していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ちょっとこの写真を見てください。現状ですね、先ほどのこの外側線ですね。これのところをこんな感じで自転車をひいたりですね、歩行者の方もおられて、特に大型車が来たときは本当にもう60センチぐらいしかないんですね。すぐガードレールがあってですね。

だから、ここは恐らく、歩いたり自転車で行くっちゃうことは、できないような状況なんですよ。だからぜひ、この水路のところを歩道部にできないかということです。特に歩道でするので、そんなに厚いふたが要るわけでもありません。ぜひ百二、三十メートルの距離があ

りますけれども、整備をお願いしたいと思っておりますけれども、市長どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ここについては、先ほど部長が答弁をされましたように、中学校の整備にあわせて向かい側の歩道を若干広げているという状況でありますので、ぜひそちらを使っていたきたいと思っておりますし、地域でもぜひ、そちらの広いほうの歩道を使うほうがいいよということで周知等をお願いしたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

この周辺には大型商業施設といいますか、そういうのもありますので、ぜひ調査をしていただいて前向きに考えてほしいと思っております。

そしたらもう一つの市道の視距改良についての質問でございます。市道の本町川良線、これは武雄小学校の下の市道ですけれども、道路幅員が4メートルしかない。朝の通勤通学の時間帯では、7時から8時半が一方通行をされている道路です。これは道路幅員が4メートルしかないのではなかなか離合ができづらいような状況のところなんです。特にこの先に行きますと、カーブでちょっと通りづらいところなんですけれども、現在このようにカーブの手前の家屋が解体されまして非常に見通しもよくなりつつあります。

できたら用地を取得していただいて離合場所にこういったところをしていただけないかなということを提案したいんですけれども、どう思われるでしょうか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古川まちづくり部長

○古川まちづくり部長〔登壇〕

御指摘のカーブ区間については、現在、家屋が解体されまして空き地になっております。カーブの街路樹で先が見にくいようなカーブでございますので、視距改良という捉え方をしております。まず調査、線形の検討を行いまして、用地の御協力等が得られれば局部改良等のできるのではないかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

ほんとにこの側溝の際まで家屋があったんですね。だからこれが解体することによって非常に通りやすくなっております。また、スピードも出す方もふえてくるんですけれども、

今の時期に、ほんとその2、3メートルの幅員でいいと思うんですよ。そこをぜひ取得していただいて、やっぱり交通事故防止といいますか、視距改良に努めてほしいなということを考えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

そしたら、3つ目の子育て支援について質問いたします。

小松市長はこのたびですね、子どもの未来を応援する首長連合の会長に就任をされました。ずばり小松市長の決意のほどを、どのようなことを思っておられるのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

子どもたちに未来の希望をちゃんと用意したいと、そのように考えております。これは全国的な問題ですので、全国でお互いに情報を共有して、いい政策はお互いにすぐパクってできるようなそういったプラットフォームにしたいと。それで武雄市はもとより日本全国が底上げされる、ここから底上げされていくと、そういうような組織にしたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

首長連合の会長さんですので、しっかりした考えを持って取り組んでほしいと思います。

子どもの居場所づくりについてということで、今年度からなかよし川良っ子を地元で始めております。きょうも区長さんが見えですけども、先日、日曜日のことです。おなかいっぱいカレーを食べて元気よくたこを揚げようという試みをやってみました。子どもたちが約40名ぐらいでしたかね、参加してくれました、1年から6年生まで。そして今回は高校生のジュニアリーダーの方の協力も得まして、また地元の長寿会、また食改の方も来ていただきまして総勢70名ぐらいの方が協力をしていただきました。

まず、たこづくりについては、いろんな絵を描いたり組み立てたりしてつくっていただきまして、子どもたちが各自がつくったたこをですね、カレーを食べた後にグラウンドでたこ揚げというのを初めて皆さん経験したようなことを言っていましたけれども、ほんとにこのときは天候もよくて、大はしゃぎの元気な子どもたちの声を聞くことができました。本当に高く揚がって、もう40メートルぐらい揚がったようなたこもあったようでございます。

これも今、武雄市が企画課で行っております、がんばる地域応援事業補助金というのを活用させていただきましたが、これも今年度限りというようなことも聞いておりますけれども、ぜひこのことも補助金の継続をお願いしたいと思いますけれども、そのことについてお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川企画財政部長

○平川企画財政部長〔登壇〕

武雄市ががんばる地域応援事業補助金につきましては、来年度につきましては、まちづくりの交付金これとの組み合わせといたしますか、それとの組み合わせで制度を引き続き保ちたいというふうに考えております。

詳細につきましては、予算等も今後詰めていくということになると思いますが、市長のほうからも御答弁申し上げておりますとおり、あわせて今年度程度ということで答弁がされている内容のとおりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

今回、このとおり子どもたちの取り組みも、市長の子どもさんも実際見えておられました。どのように子どもさんからお聞きだったのか、ちょっと市長のほうからよろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

この川良っ子については、うちの子どもも楽しみにしています。今1年生なんですけれども、1年生だけではなくてまさに学年を超えて、そして地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒にいろいろ交われるということで、今回も非常に楽しみにしていきまして満足をして帰ってきました。

○議長（杉原豊喜君）

4番山口等議員

○4番（山口 等君）〔登壇〕

このような取り組みは、地域はもちろんなんですけど学校との連携というのも非常に重要になってくると思います。それで、これから先もこういったことを続けながら活動していきたいと思うんですが、やっぱり先ほど言いました補助金の継続をぜひお願いしておきたいと思います。子どもたちにはこの後も、今度なんばしてくれると、というような声で非常に期待もしております。

ぜひ今後ともこういった補助金の継続をぜひお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で4番山口等議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

散 会 11時53分

